

## 曾根城(市史跡)(大垣市曾根町1丁目)(華溪寺, 曾根城公園)

曾根城(そねじょう)は、現在の岐阜県大垣市にあった戦国時代の日本の城である。曾根城とも表記される。春日局ゆかりの地である。

### 概要

後述の華溪寺所蔵の「濃州曾根古城跡図」によれば、本丸の東に二の丸があり、内堀と外堀、城下町を囲む惣堀を備え、家老屋敷、侍屋敷、町屋などが並んでいたとみられる<sup>[2]</sup>。本丸は1000坪、二の丸を含めると4,000ないし5,000坪の規模だったと推定されている。

### 歴史

- 築城は永禄年間(1558年 - 1569年)、稲葉良通(一鉄)による。
- 本能寺の変後、稲葉一鉄は豊臣秀吉の不審を買い、現在の揖斐郡揖斐川町清水に退く。その後、1588年(天正16年)、西尾光教が城主となる。
- 関ヶ原の戦いでは、西尾光教は東軍に属す。西軍の島津義弘の兵が城下に火を放ち、銃撃するという示威行為を行う。水野勝成が援軍に駆けつけ反撃をしている。
- 関ヶ原の戦い後、西尾光教はその功績により、揖斐陣屋(揖斐城の近く。現在の揖斐川町三輪)に移り、1601年(慶長5年)廃城される。

### 春日局との関係

- 春日局の父は明智光秀の重臣であり甥(実際には従弟)とも言われる斎藤利三で、母は稲葉良通(一鉄)の娘である。後に稲葉正成の妻となっている。
- 華溪寺に伝わる古地図には、斎藤利三の住居が記載されている。娘の春日局もこの地で誕生したという説もあるが、利三は当時、主君の明智光秀に従い、丹波国の黒井城にいる。

Wikipediaによる

